

# NSG グループ

## 2023年3月期 第3四半期決算報告

(2022年4月1日～ 2022年12月31日)

日本板硝子株式会社  
執行役常務 CFO  
楠瀬 玲子

2023年2月9日

# 目次



1. 2023年3月期 第3四半期決算概要
2. 2023年3月期 業績予想について
3. リバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革施策の主な進捗
4. まとめ

CFOの楠瀬です。

2ページは本日のご説明内容になります。

本日は2023年3月期 第3四半期決算の概要および2023年3月期の業績予想について、そしてリバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革施策の主な進捗についてご説明致します。

## 1. 2023年3月期 第3四半期決算概要

# 連結損益計算書



販売価格上昇、販売数量増加、また円安もあり売上高および営業利益は増収増益を継続。  
 原燃材料費の高騰は続くが、販売価格上昇により吸収

(億円)	10-12月期 (3か月)			累計 (9か月)		
	2022年 3月期	2023年 3月期	差異	2022年 3月期	2023年 3月期	差異
売上高	1,523	<b>1,906</b>	383	4,430	<b>5,662</b>	1,233
営業利益	18	<b>97</b>	79	145	<b>242</b>	96
営業利益率	1.2%	<b>5.1%</b>	+3.9pt	3.3%	<b>4.3%</b>	+1.0pt
個別開示項目 (純額)	△ 2	<b>10</b>	12	44	<b>△ 439</b>	△ 483
個別開示項目後 営業利益 (△損失)	17	<b>107</b>	91	189	<b>△ 198</b>	△ 387
金融費用 (純額)	△ 32	△ <b>48</b>	△ 16	△ 90	△ <b>113</b>	△ 23
持分法による投資利益	22	<b>21</b>	△ 1	56	<b>54</b>	△ 2
持分法投資に関する その他の利益 (△損失)	-	△ <b>4</b>	△ 4	-	△ <b>11</b>	△ 11
税引前利益 (△損失)	7	<b>77</b>	70	154	<b>△ 268</b>	△ 422
当期利益 (△損失)	10	<b>22</b>	12	105	<b>△ 348</b>	△ 453
純利益 (△損失) *	0	<b>17</b>	16	86	<b>△ 372</b>	△ 458
EBITDA	111	<b>202</b>	91	422	<b>544</b>	121

円安もあり全事業で増収増益 (前年度売却したバッテリーセパレーター事業を除く)。建築用ガラス、自動車用ガラスを中心に高騰した原燃材料コストの価格転嫁が進展

【売上高および営業利益 (事業別) : 前年比】

(億円)	売上高	営業利益
建築用	+688	+58
自動車用	+551	+48
高機能	△10	△5
その他	+3	△4
<b>グループ全体</b>	<b>+1,233</b>	<b>+96</b>

第2四半期に欧州の自動車用ガラス事業について、のれんおよび無形資産の減損損失を計上

2023年2月9日 | 2023年3月期第3四半期決算報告

\*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

4

まず、4ページの連結損益計算書からご説明致します。

ご覧の表の左側が第3四半期 (3か月) の業績、右側が累計 (9か月) の業績になります。

当第3四半期 (10-12月期) では、  
 自動車用ガラス事業では、半導体を中心とした自動車部品不足の影響が  
 徐々に緩和し販売数量が増加、  
 建築用ガラス事業と共に原燃材料の高騰を販売価格の改善で吸収し増収増益となりました。  
 その結果、売上高は前年同期から383億円、25%の増収で1,906億円となりました。

営業利益は79億円、433%の増益で97億円となりました。  
 4-12月の9か月累計でも、売上高は前年同期比1,233億円、28%増収の5,662億円、  
 営業利益は前年同期比96億円、66%増益の242億円と増収増益で、  
 通期予想の180億円を上回りました。

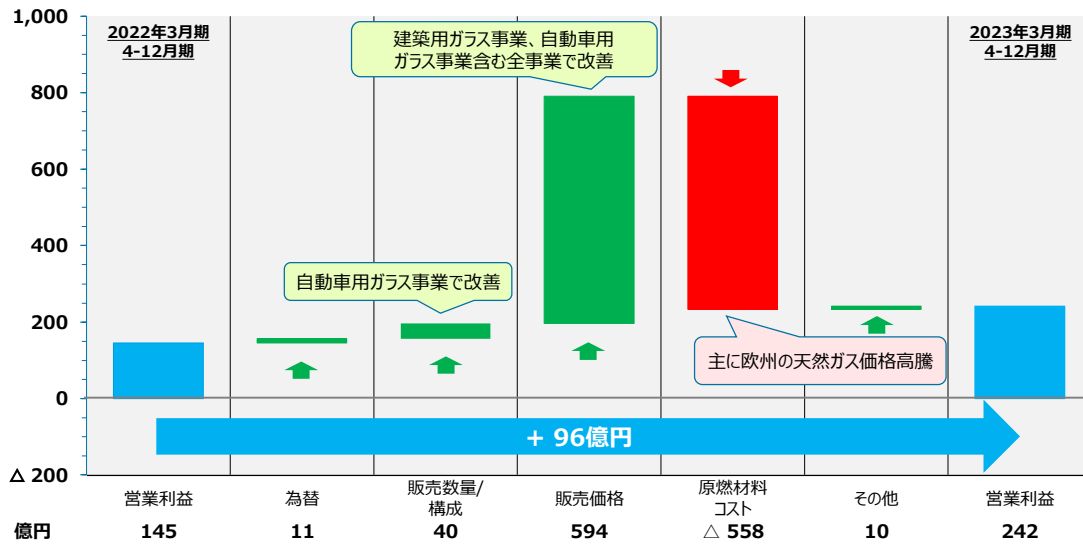
営業利益より下の項目を見て頂くと、個別開示項目は、  
 第2四半期において欧州の自動車用ガラス事業について  
 2006年のピルキントン社買収により生じたのれんおよび無形資産の減損損失488億円を  
 計上したため、累計で439億円のマイナスとなりました。  
 その結果、個別開示項目後営業損失は、198億円でした。

持分法による投資利益においては、  
 ロシアのジョイント・ベンチャーに対する持分法による投資利益を一旦計上するものの、  
 前年度末に投資の一部に対して減損損失を認識したことに伴い、即時同額を減損しています。

以上、個別開示項目費用の計上に伴い、累計では税引前損失は268億円、当期損失は348億円、純損失は372億円と大幅な赤字となりました。

## 営業利益差異分析 (4-12月期累計)

原燃材料やその他コスト増加の影響を受けたが、販売価格改善および販売数量増加で吸収



続きまして5ページは、4-12月期の9か月間の営業利益について、前年同期との差異分析となります。

前年度第3四半期累計の営業利益145億円と、当第3四半期累計の営業利益242億円との差異96億円の説明です。

「為替」は、円安の影響を受け11億円のプラスでした。

「販売数量/構成」は、自動車用ガラス事業での改善により、40億円プラスとなりました。

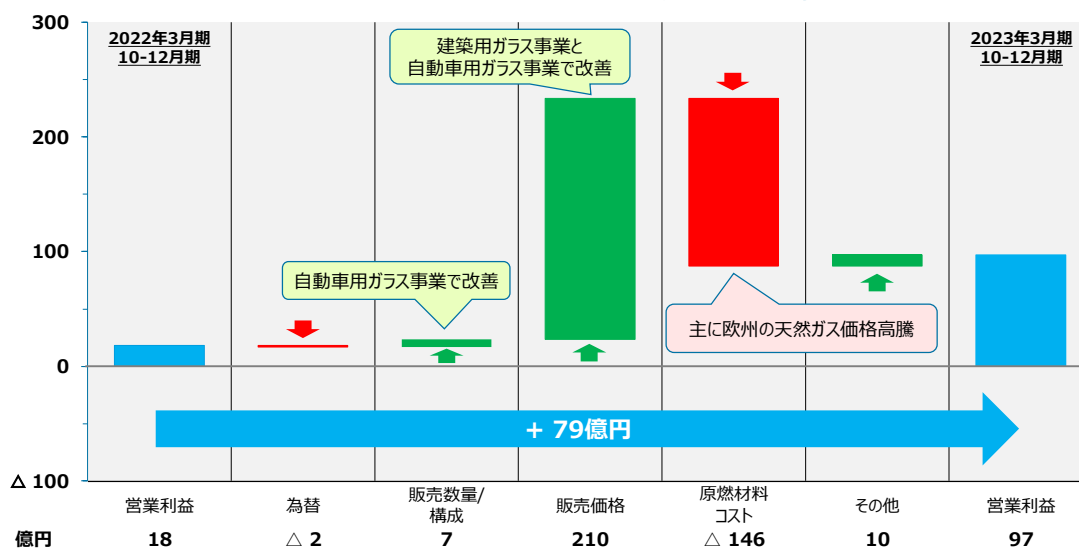
「販売価格」は594億円のプラス、良好な需給環境と燃料サーチャージ制を反映した建築用ガラス事業と、自動車メーカーとの交渉が進展した自動車用ガラス事業で価格が改善しました。

「原燃材料コスト」は、558億円のマイナスで、主に欧州の天然ガスを中心とした全世界でのエネルギー価格と原材料高騰の影響を大きく受けました。

「その他」は、10億円のプラスとなりました。運送費などのコストは引き続き上昇しましたが、リバイバル計画24（RP24）の主要施策であるコスト構造改革等により相殺しました。

## 営業利益差異分析 (10-12月期)

原燃材料等コスト増加影響を受けたが、販売価格改善により前年から大幅改善



2023年2月9日 | 2023年3月期第3四半期決算報告

6

続きまして6ページは、10-12月期、第3四半期3か月間の営業利益について、前年同期との差異分析となります。

前年度第3四半期の営業利益18億円と、当第3四半期の営業利益97億円との差異79億円の説明です。

「為替」は、この3か月間で新興国通貨の円高影響を受け2億円のマイナスでした。

「販売数量/構成」は、自動車用ガラス事業での改善により、7億円プラスとなりました。

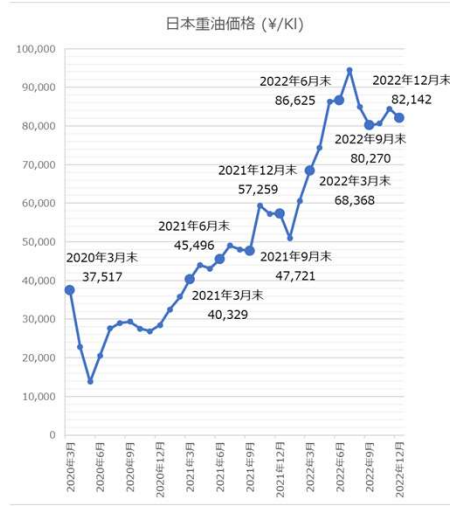
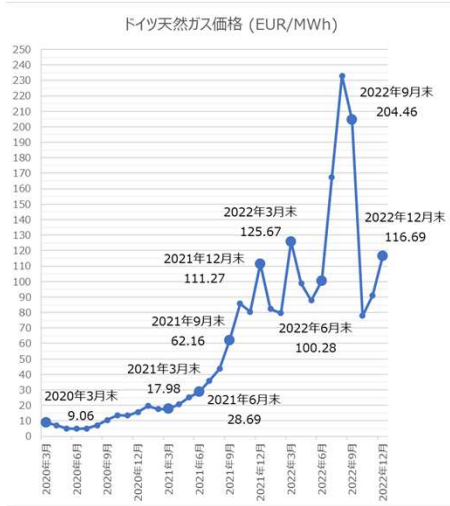
「販売価格」は、210億円のプラスで、これは主に建築用ガラス事業と自動車用ガラス事業によるものです。建築用ガラス事業においては、第2四半期に急騰した燃料価格を欧米では燃料サーチャージ制により販売価格に翌月以降に反映します。このタイミングが第3四半期にずれこんだため、大きな金額となっています。自動車用ガラス事業では、取引先に対する価格転嫁が進捗し価格が改善しました。

「原燃材料コスト」は、146億円のマイナスで、引き続き全世界でのエネルギー価格や原材料費高騰の影響を大きく受けました。

「その他」は、10億円のプラスとなりました。運送費などのコストは引き続き上昇しましたが、リバイバル計画24（RP24）の施策であるコスト構造改革等の成果により相殺しました。

# エネルギー価格の推移

ドイツの天然ガス価格：第3四半期に下落したものの依然高水準。  
日本の重油価格：当第3四半期も80,000円/KI超の高価格で推移



2023年2月9日 | 2023年3月期第3四半期決算報告

7

続きまして、7ページでエネルギー価格の推移を示しています。

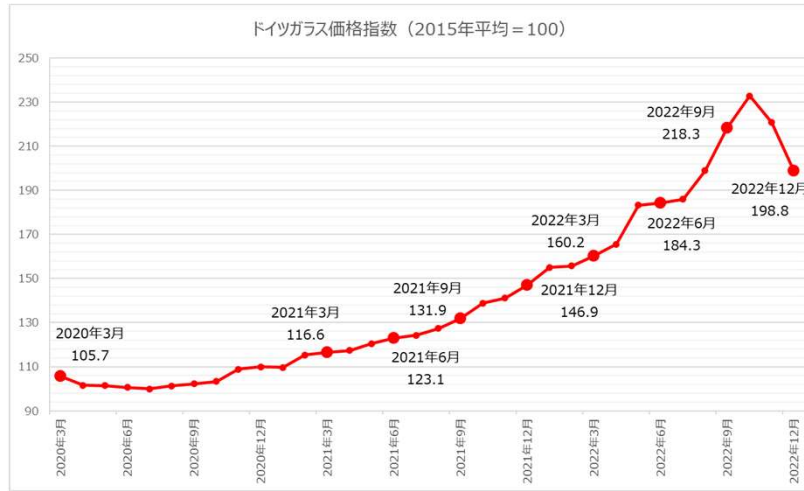
左側がドイツの天然ガスの市場価格の推移、  
右側が日本の重油の市場価格の推移になります。

ドイツにおいては天然ガスの価格は第3四半期は第2四半期の高騰後に下落しましたが、依然として高水準で推移しました。  
日本における重油価格も依然高価格で推移しています。



## ガラス価格の推移

ドイツのガラス価格は、2022年12月は前年同月比1.4倍に上昇。  
天然ガスを中心とした原燃材料価格高騰の影響を吸収



2023年2月9日 | 2023年3月期第3四半期決算報告

8

こちらはドイツのガラスの市場価格の推移になりますが、先ほどの営業利益差異分析でご説明をした通り、第3四半期は第2四半期の天然ガス価格高騰の影響を月ずれで反映し、最高値を記録した後、天然ガス価格のトレンドを受けて下がってきました。しかしながら、価格自体は2022年12月は前年12月に比して1.4倍に上昇しており、引き続き欧州の天然ガスを中心とした原燃材料価格高騰の影響を吸収しています。

# 連結貸借対照表



第2四半期におけるのれんの減損にも関わらず、RP24の目標数値である自己資本比率10%超を維持

(億円)	2022年 3月末	2022年 12月末	増減	
<b>資産合計</b>	<b>9,393</b>	<b>9,456</b>	<b>64</b>	第2四半期での減損認識によるのれん、無形資産の減少
非流動資産	6,370	6,219	△ 151	棚卸資産、売上債権の増加
流動資産	3,022	3,238	215	借入金が増加、長期借入金から1年以内借入金にシフト
<b>負債合計</b>	<b>7,699</b>	<b>8,068</b>	<b>369</b>	第2四半期の減損損失計上により減少したが、退職給付債務の減少および超インフレ調整で一部相殺。自己資本比率11%超
流動負債	3,067	4,345	1,277	
非流動負債	4,632	3,724	△ 908	
<b>資本合計</b>	<b>1,694</b>	<b>1,388</b>	<b>△ 305</b>	主にフリー・キャッシュ・フローのマイナス、円安影響
親会社の所有者に帰属する持分	1,453	1,096	△ 356	
<b>自己資本比率 (%)</b>	<b>15.5%</b>	<b>11.6%</b>	<b>△ 3.9pt</b>	
<b>ネット借入</b>	<b>3,652</b>	<b>4,195</b>	<b>543</b>	

2023年2月9日 | 2023年3月期第3四半期決算報告

9

9ページは連結貸借対照表になります。

非流動資産は、円安の影響を受けた一方、のれんおよび無形資産の減損により151億円の減となりました。

流動資産は、主に建築用ガラス事業と自動車用ガラス事業において、原燃材料費高騰の影響を受けた棚卸資産の増加と販売価格改善による売上債権の増加で、215億円の増でした。

長期借入金が1年以内借入金にシフトしたため、流動負債は1,277億円の増となる一方で、非流動負債は908億円の減でした。負債の増加はフリー・キャッシュ・フローのマイナスに伴い借入金が増加したためです。

親会社の所有者に帰属する持分は、第2四半期に減損損失の計上があったものの、退職給付債務の減少、およびアルゼンチンにおける超インフレ調整の影響により一部相殺し、356億円減の1,096億円でした。

この結果、自己資本比率は11.6%となり、RP24の財務目標数値である自己資本比率10%以上を維持できています。

ネット借入は、主にフリー・キャッシュ・フローのマイナスと円安影響により、543億円増加しました。

# 連結キャッシュ・フロー計算書



原燃材料費高騰による運転資本増加によりフリー・キャッシュ・フローはマイナスだが、  
運転資本改善により通期では前年度と同様にプラス、RP24の財務数値目標達成を目指す

(億円)	10-12月期 (3か月)			4-12月期累計 (9か月)		
	2022年 3月期	2023年 3月期	差異	2022年 3月期	2023年 3月期	差異
営業活動によるキャッシュ・フロー	67	△ 31	△ 97	211	83	△ 128
(うち、運転資本の増減)	0	△ 172	△ 172	△ 87	△ 326	△ 239
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 42	△ 88	△ 46	△ 201	△ 297	△ 97
(うち、有形固定資産の取得)	△ 57	△ 93	△ 36	△ 260	△ 284	△ 24
<b>フリー・キャッシュ・フロー</b>	<b>24</b>	<b>△ 119</b>	<b>△ 143</b>	<b>11</b>	<b>△ 214</b>	<b>△ 225</b>
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1	113	114	△ 120	128	248
現金および現金同等物の増減	23	△ 6	△ 29	△ 109	△ 86	23
現金および現金同等物 期末残高				446	528	82

コストおよび販売価格上昇に伴い棚卸資産、売上債権増加

前年度はバッテリーセパレーター事業の譲渡収入を計上

円安影響により増加

運転資本の増加を除けば前年度並みで推移。通期でのプラスを目指す

2023年2月9日 | 2023年3月期第3四半期決算報告

10

10ページは、連結キャッシュ・フロー計算書です。

営業活動によるキャッシュ・フローは、累計9か月間では、  
運転資本増により前年同期比128億円の減、83億円のプラスとなりました。  
10-12月期の3か月間でも、  
コスト上昇に伴う棚卸資産増加と  
販売価格改善による売上債権の増を要因とした運転資本増で、  
前年同期比97億円の減、31億円のマイナスとなりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、累計で前年同期から97億円減少しています。  
これは、前年度はバッテリーセパレーター事業の譲渡収入を計上した一方で、  
本年度は円安もあり有形固定資産の取得が増加したためです。

以上により、4-12月期累計のフリー・キャッシュ・フローは214億円のマイナスとなりましたが、  
運転資本改善により、前年と同様に通期ではRP24の財務目標である100億円以上のプラス  
を目指します。

# セグメント情報



(億円)	2021年3月期 4-12月期				2022年3月期 4-12月期			2023年3月期 4-12月期			増減	
	売上高	%	営業利益	COVID後 営業利益*	売上高	%	営業利益	売上高	%	営業利益	売上高	営業利益
<b>建築用ガラス事業</b>	<b>1,561</b>	<b>44%</b>	<b>115</b>	<b>58</b>	<b>2,069</b>	<b>47%</b>	<b>204</b>	<b>2,757</b>	<b>49%</b>	<b>262</b>	<b>688</b>	<b>58</b>
欧州	606	17%			842	19%		1,180	21%		337	
アジア	583	16%			647	15%		748	13%		100	
米州	372	10%			579	13%		830	15%		250	
<b>自動車用ガラス事業</b>	<b>1,736</b>	<b>49%</b>	<b>△ 11</b>	<b>△ 94</b>	<b>2,033</b>	<b>46%</b>	<b>△ 59</b>	<b>2,584</b>	<b>46%</b>	<b>△ 11</b>	<b>551</b>	<b>48</b>
欧州	721	20%			864	20%		1,076	19%		212	
アジア	434	12%			444	10%		494	9%		50	
米州	581	16%			725	16%		1,015	18%		290	
<b>高機能ガラス事業</b>	<b>266</b>	<b>7%</b>	<b>45</b>	<b>43</b>	<b>308</b>	<b>7%</b>	<b>78</b>	<b>298</b>	<b>5%</b>	<b>72</b>	<b>△ 10</b>	<b>△ 5</b>
欧州	46	1%			59	1%		68	1%		9	
アジア	212	6%			240	5%		218	4%		△ 22	
米州	8	0%			9	0%		12	0%		3	
<b>その他</b>	<b>11</b>	<b>0%</b>	<b>△ 69</b>	<b>△ 67</b>	<b>20</b>	<b>0%</b>	<b>△ 77</b>	<b>23</b>	<b>0%</b>	<b>△ 82</b>	<b>3</b>	<b>△ 4</b>
<b>合計</b>	<b>3,574</b>	<b>100%</b>	<b>80</b>	<b>△ 60</b>	<b>4,430</b>	<b>100%</b>	<b>145</b>	<b>5,662</b>	<b>100%</b>	<b>242</b>	<b>1,233</b>	<b>96</b>

2023年2月9日 | 2023年3月期第3四半期決算報告

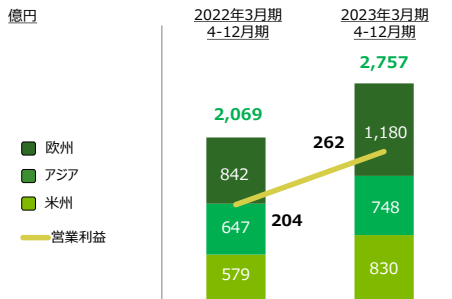
\*COVID-19関連個別開示項目後営業利益 11

11ページは、過去3か年度の累計の事業セグメント毎に売上高および営業利益を示しています。各事業の詳細については次ページ以降のスライドでご説明します。

# 建築用ガラス事業 (累計：増収・増益 10-12月期：増収・増益)



全地域で堅調な需要が継続、販売価格改善および為替影響もあり大幅増収。  
エネルギーを中心に原燃材料価格高騰の影響を受けるが、価格改善により増益



(億円)	10-12月期 (3か月)			累計 (9か月)		
	2022年 3月期	2023年 3月期	差異	2022年 3月期	2023年 3月期	差異
売上高	748	936	187	2,069	2,757	688
欧州	293	391	98	842	1,180	337
アジア	245	258	13	647	748	100
米州	210	287	76	579	830	250
営業利益	68	107	39	204	262	58

2023年2月9日 | 2023年3月期第3四半期決算報告

12

## 欧州 (累計：増収・増益 10-12月期：増収・増益)

- 当第3四半期はインフレ進行と金利上昇に伴い需要がやや減少
- 天然ガスを中心に高止まりした原燃材料費を販売価格転嫁で吸収

## アジア (累計：増収・増益 10-12月期：増収・減益)

- 日本では販売価格改善がさらに進展
- その他アジアでは競合激化により販売数量減少・販売価格低下
- 太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調

## 米州 (累計：増収・増益 10-12月期：増収・増益)

- 北米は、輸送コンテナ不足による出荷の制約が解消、強い需要を背景に販売価格が上昇
- 太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調
- 南米は強い需要が継続

12ページは、建築用ガラス事業です。

建築用ガラス事業は、全地域での強い需要と価格改善を背景に、  
為替の円安効果もあり大幅な増収となりました。

営業利益は、引き続きエネルギー価格と原材料高騰の影響を受けましたが、  
価格改善等により軽減し、全体では増益を維持しました。

欧州は、増収増益となりました。

中長期的には新築のみならずリフォームによる底堅い需要がみこまれるものの、  
当第3四半期ではエネルギー価格の高騰、インフレの進行と金利上昇により、  
需要はやや減少しました。

ただし、第2四半期に急騰した燃料価格を  
燃料サーチャージ制により第3四半期に販売価格に反映した結果、  
期ずれにより収益性が改善しました。

アジアは、累計では増収増益でしたが当第3四半期では増収減益でした。

第3四半期において、日本では前年度に続き10月からの値上げ効果も発現していますが、  
その他の国々では競合激化により、販売数量が減少、販売価格も低下しています。  
太陽電池パネル用ガラスの需要は引き続き堅調に推移しています。

米州も、増収増益となりました。

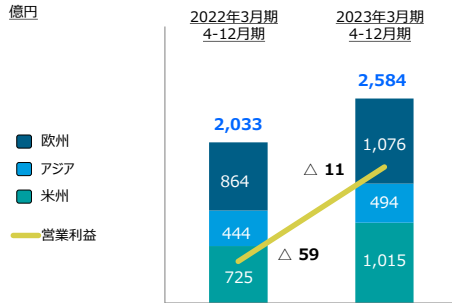
北米は、輸送コンテナの不足による出荷の制約も解消し、  
強い需要とエネルギーサーチャージ制を背景に、販売価格が増加しました。  
太陽電池パネル用ガラスの需要は引き続き堅調です。

南米は、強い需要が継続しています。

第3四半期からアルゼンチンで2基目のフロート窯が生産を開始しています。

# 自動車用ガラス事業 (累計：増収・増益 10-12月期：増収・増益) NSG GROUP

自動車メーカー向け販売価格改善が進捗し、第3四半期は前年度第1四半期以来の営業黒字に転換。  
部品不足による自動車生産制約の影響が続くが、徐々に解消



欧州 (累計：増収・増益 10-12月期：増収・増益)  
アジア (累計：増収・減益 10-12月期：増収・増益)  
米州 (累計：増収・減益 10-12月期：増収・減益)

- 当第3四半期においても全地域で多くの自動車メーカーとの価格改善交渉がさらに進捗し、高騰した原燃材料費を相殺
- 半導体等自動車部品不足による自動車生産の制約の影響が続いているが、欧州では徐々に解消
- 日本では舞鶴の窯の定期修繕後、生産効率が改善
- 米州では需要は堅調だが、原燃材料費や運送費等其他費用の上昇により減益

(億円)	10-12月期 (3か月)			累計 (9か月)		
	2022年 3月期	2023年 3月期	差異	2022年 3月期	2023年 3月期	差異
売上高	681	866	185	2,033	2,584	551
欧州	273	377	104	864	1,076	212
アジア	164	170	6	444	494	50
米州	244	319	75	725	1,015	290
営業利益	△ 49	6	54	△ 59	△ 11	48

2023年2月9日 | 2023年3月期第3四半期決算報告

13

13ページは自動車用ガラス事業です。

自動車用ガラス事業は、累計では全体として増収増益でした。  
自動車メーカーに対する販売価格改善がさらに進捗しました。  
部品不足による自動車生産制約の影響は続きましたが、徐々に解消しました。  
その結果、当第3四半期では、前年度第1四半期以来の営業利益を計上しました。

自動車メーカーとの、投入コスト上昇を緩和することを目的とした価格改善交渉は、  
全地域で多くのメーカーと合意に達し、第2四半期に引き続き当第3四半期でも  
さらに進捗しています。

半導体を中心とした自動車部品不足による自動車生産の制約は、  
依然として継続していますが、欧州では徐々に回復しています。

また、日本では舞鶴のフロート窯の定期修繕が第2四半期に終了しており、  
生産効率改善やコスト削減が進みました。

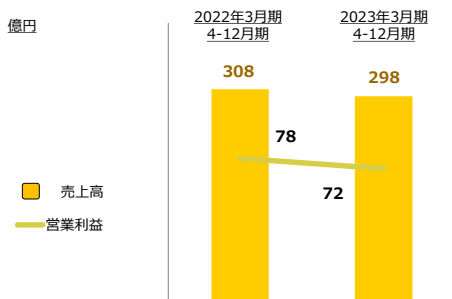
米州では強い需要が継続していますが、  
原燃材料費、運送費、人件費等其他費用の上昇により減益でした。

引き続き継続的なコスト削減努力や製品の高付加価値化とともに  
販売価格改善も進め、通期での営業黒字達成を目指します。

## 高機能ガラス事業 (累計：増収・増益 10-12月期：増収・減益)



第3四半期は中国でのロックダウンの影響により販売数量が減、コスト上昇もあり利益率低下。  
累計では増収増益を継続 (前年度9月に売却したバッテリーセパレーター事業を除く)



- ファインガラスは、当第3四半期は景気減速の影響を一部受けたが、継続的なコスト削減等により累計では業績は安定
- プリンター用レンズは、第3四半期に半導体等部品不足の影響から徐々に回復したが、需要は北米や欧州でわずかに減少
- グラスコードはアフターマーケット用を中心に需要が堅調であったが、取引先のサプライチェーンの問題を受けて販売数量減少
- メタシャイン® は自動車塗料および化粧品向けで需要がわずかに減少

(億円)	10-12月期 (3か月)			累計 (9か月)		
	2022年 3月期	2023年 3月期	差異	2022年 3月期	2023年 3月期	差異
売上高	91	96	5	308	298	△ 10
営業利益	21	15	△ 5	78	72	△ 5

2023年2月9日 | 2023年3月期第3四半期決算報告

14

続きまして14ページです。

高機能ガラス事業は、  
第3四半期においては中国での新型コロナウイルスの感染拡大と  
それに伴うロックダウンの影響を受け販売数量が減少、  
原燃材料費や運送費等のコスト上昇もあり収益性は低下しました。

一方累計では、前年度の9月に売却したバッテリーセパレーター事業を除くと、  
堅調な需要が継続したことに加えて為替影響やコスト削減を背景に  
増収増益を継続しました。

ファインガラスは、特に第3四半期において景気減速の影響を一部受けましたが、  
累計では継続的なコスト削減による事業基盤の強化と売上構成改善により  
業績は引き続き安定していました。

プリンター用レンズは、半導体等部品不足の影響から徐々に回復したものの、  
需要はインフレの影響もあり北米や欧州でわずかに減少しました。

グラスコードはアフターマーケット用を中心に潜在的な需要自体は堅調なものの、  
販売数量は取引先におけるサプライチェーンの問題による影響を受けました。

メタシャイン®は自動車塗装および化粧品向けで需要がわずかに減少しました。

## 2. 2023年3月期 業績予想について



## 2023年3月期通期業績予想の前提

グループ	<b>第3四半期累計実績を踏まえ通期売上高・営業利益・税引前損失・当期損失・純損失予想を上方修正</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>円安の影響が継続</li> <li>エネルギー価格高騰、世界的なインフレ拡大等で投入コスト増加が継続</li> <li>金利上昇による潜在的な景気後退などのリスクにより第4四半期の事業環境は依然不透明</li> <li>引き続き全社的なコスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善に努め、収益性改善に注力</li> </ul>
建築用ガラス	<b>良好な需給環境継続を期待、一方で欧米を中心にエネルギー価格変動の影響と景気後退懸念</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>欧州：エネルギー価格の変動、原材料費高騰は続くが、価格転嫁も継続。販売数量はやや減少の見込み</li> <li>アジア：日本の数量および価格が回復するが、その他アジア地域での競合状況を注視</li> <li>北米：市場は好調継続ながら利上げによる景気後退懸念</li> <li>南米：タイトな需給環境が継続、アルゼンチンの新フロート窯の稼働が貢献</li> <li>太陽電池パネル用ガラス：堅調な需要が続き、マレーシアで生産設備建設開始、米国でも拡大検討中</li> </ul>
自動車用ガラス	<b>自動車需要は堅調だが、半導体等部品不足と原燃材料費高騰の影響が続く見込み、価格改善交渉継続</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>全地域で強い自動車需要と在庫逼迫感は継続</li> <li>自動車メーカーとの価格改善交渉がさらに進展、徐々に効果が発現</li> <li>半導体等部品不足は続くが、徐々に解消していく見込み</li> <li>日本では舞鶴の窯の定期修繕が完了し、収益性の改善に貢献</li> <li>原燃材料費高騰をコスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善により軽減、通期黒字転換を目指す</li> </ul>
高機能ガラス	<b>コスト上昇および需要減少の影響を受け利益率低下</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ファインガラスは、コスト削減を継続するが、景気減速の影響も懸念</li> <li>プリンター用レンズは、部品不足による影響や景気動向を注視</li> <li>グラスコードは、アフターマーケット用を中心に安定した需要の一方で取引先のサプライチェーンの状況を注視</li> </ul>

2023年2月9日 | 2023年3月期第3四半期決算報告

16

続いて2023年3月期の業績予想です。

スライド16は、2023年3月期業績予想の前提を示しています。

今般、2023年3月期通期売上高および通期営業利益予想を、好調な第3四半期累計実績と円安影響の継続を踏まえ、上方修正しました。この結果、税引前損失・当期損失・純損失予想も上方修正となります。

一方で、エネルギー価格の高騰、世界的なインフレ傾向を反映した投入コスト増加や、金利上昇の影響による景気後退リスクなどの不透明な事業環境も継続すると見ています。今後も全社的なコスト削減努力や高付加価値製品の拡大、価格改善などに取り組むことにより、これらの潜在的リスクの影響を低減し、収益性の改善に注力してまいります。

事業別に見ますと、建築用ガラス事業は、欧州では、天然ガスを中心とした燃料価格の不安定な動きや、原材料費高騰が継続すると予測されます。価格転嫁によりその影響を軽減していきますが、期ずれにより第4四半期の収益が影響を受ける可能性があります。販売数量はインフレ進行や金利上昇の影響を受けてやや減少する見込みです。アジアでは、日本では数量の増に加え、10月からの値上げ効果も継続すると見ていますが、その他アジア地域では競合状況を注視する必要があります。北米では、好調な経済活動に伴い域内市場の底堅い需要が期待されるものの、利上げによる景気後退が懸念されます。南米ではタイトな需給環境が継続、アルゼンチンでの新フロート窯の生産開始が引き続き貢献する想定です。太陽電池パネル用ガラスは、堅調な需要を継続すると見込んでいます。なお、2024年3月期第3四半期の生産開始に向けてマレーシアでオンラインコーティング設備の建設が開始しました。また、米国でも拡大に向けて検討中です。

自動車用ガラス事業では、  
全地域で強い自動車需要は継続し、半導体不足に伴う自動車生産の制約は  
徐々に緩和する見込みです。  
また、自動車メーカーとの価格改善交渉はさらに進捗し効果が発現すると想定されます。  
日本では、舞鶴のフロート窯の定期修繕の完了による収益性の改善が、  
引き続き貢献する見込みです。  
引き続き、コスト削減、高付加価値製品の拡大、価格改善を進め、  
通期での黒字転換を目指します。

高機能ガラス事業では、  
投入コストを含めたコスト上昇および需要減少の影響を受け、  
利益率が低下すると見えています。  
また、景気減速やサプライチェーンでの部品不足による影響も注視する必要があります。

## 2023年3月期通期業績予想

想定を上回る第3四半期累計実績を踏まえ、通期売上高・営業利益予想を上方修正。  
税引前損失・当期損失・純損失についても改善

(億円)	2023年3月期 第3四半期 累計実績	2023年3月期 通期予想 (前回予想)	2023年3月期 通期予想 (今回予想)	増減	2022年3月期 通期実績
売上高	5,662	7,400	<b>7,500</b>	100	6,006
営業利益	242	180	<b>280</b>	100	200
個別開示項目(純額)	△ 439	△ 450	△ <b>440</b>	10	36
個別開示項目後営業利益(△損失)	△ 198	△ 270	△ <b>160</b>	110	236
金融費用(純額)	△ 113	△ 130	△ <b>150</b>	△ 20	△ 125
持分法適用会社に対する 金融債権の減損損失	-	-	-	-	△ 34
持分法による投資損益	54	50	<b>60</b>	10	75
持分法投資に関する その他の利益(△損失)	△ 11				△ 34
税引前利益(△損失)	△ 268	△ 350	△ <b>250</b>	100	119
当期利益(△損失)	△ 348	△ 380	△ <b>340</b>	40	68
純利益(△損失)*	△ 372	△ 410	△ <b>370</b>	40	41

2023年2月9日 | 2023年3月期第3四半期決算報告

\*親会社の所有者に帰属する当期利益(△損失) 17

スライド17ページに移ります。  
こちらが2023年3月期の通期業績予想になります。

表の左側から、2023年3月期第3四半期までの累計実績、前回通期予想、  
今回通期予想、前回通期予想と今回通期予想の増減、  
前年度2022年3月期通期実績と並んでおります。

先ほどご説明した通り、  
通期売上高・営業利益・税引前損失・当期損失・純損失予想を上方修正しました。  
これは想定を上回る第3四半期までの実績を踏まえたものです。

RP24の施策に基づき、全社的なコスト削減、高付加価値製品の拡大および  
価格改善により潜在的なリスクの影響を軽減し、  
引き続き収益性の改善と通期業績予想の達成に注力してまいります。

### 3. リバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革施策の主な進捗

## リバイバル計画24(RP24)に基づく構造改革施策の主な進捗



持続的な成長が可能な事業体質を目指してRP24の主要施策を引き続き推進。  
財務目標数値では、多額の減損損失計上後も、目標を上回る自己資本比率を維持

### 3つの改革

#### ● 事業構造改革

- ・ マレーシアの既存フロート窯における太陽電池パネル用ガラスのオンラインコーティング設備新設について、建設を開始（2024年3月期第3四半期より生産開始予定）
- ・ 米国でも太陽電池パネル用ガラスの拡大に向けて検討中
- ・ アルゼンチン2基目の新フロート窯で生産開始



マレーシアのフロート窯

#### ● 企業風土改革

- ・ 従業員の声を踏まえ、企業風土改革をトップから推進すべく「リーダーシップ行動憲章」を策定

### 2つの重点施策

#### ● 財務基盤の回復（2023年3月期 4-12月期実績）

- ・ 第3四半期に円安緩和、燃料価格低下に伴うデリバティブ評価益減少後もRP24の財務目標数値である自己資本比率10%超を維持
- ・ 2022年12月末現預金残高586億円、未使用融資枠263億円

2023年2月9日 | 2023年3月期第3四半期決算報告 RP24 説明資料:  
[https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtprp24presentation2021\\_j01.pdf](https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtprp24presentation2021_j01.pdf)

19

続きまして、リバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革について、19ページで主要な進捗を説明します。

景気後退懸念、自動車生産の制約、原燃材料価格の高騰などの逆風下にあるものの、中期経営計画RP24の2年目においても主要施策を継続、推進しており、自己資本比率は11.6%と財務目標数値の10%以上を維持しています。

RP24では持続的な成長が可能な事業体質を目指して「3つの改革」と「2つの重点施策」を掲げていますが、「3つの改革」の中の一つである「事業構造改革」では、高付加価値事業の拡大・新規成長分野の育成を進めています。既に太陽電池パネル用ガラスが当社の収益とともに環境にも貢献していますが、先日公表した、ファーストソーラー社のアジアでの生産能力拡張方針に沿ってマレーシアの既存フロート窯に新設するオンラインコーティング設備については、2024年3月期の生産開始を目指し、建設を開始しました。また、米国においても、ファーストソーラー社の米国での生産能力拡張方針に沿って、太陽電池パネル用ガラスの拡大を検討中です。アルゼンチンで2基目となる新フロート窯では、当第3四半期から生産を開始しています。活発な建築需要が供給を上回る南米での事業拡大を推進します。

「企業風土改革」では、全従業員意識調査における従業員の意見を反映し、企業風土改革をトップから推進すべく「リーダーシップ行動憲章」を作成しました。これは双方向コミュニケーション活性化の成果です。

続いて「2つの重点施策」についてご説明致します。

「財務基盤の回復」については、「コスト構造改革」や「事業構造改革」を推進する一方で、環境の変化もあり、燃料価格低下に伴うデリバティブ評価益は減少したものの、自己資本比率は、財務目標数値である10%を上回ることができています。自動車生産台数回復や高騰した原燃材料費の自動車メーカーに対する価格転嫁実現が一定の成果を上げていることを好機として、引き続き強い財務基盤の回復を進めて参ります。

## 4. まとめ

# まとめ



## 1. 2023年3月期 第3四半期決算

- 販売価格上昇、販売数量増加、また円安もあり売上高および営業利益は増収増益を継続
- 原燃材料やその他コスト増加の影響を販売価格改善および販売数量増加で吸収
- 建築用ガラス事業の好調が継続、自動車用ガラス事業でも価格転嫁が進捗
- 高機能ガラスでは中国でのロックダウンの影響を受け販売数量が減少、コスト上昇の影響を受け利益率低下
- 自己資本比率はRP24の財務目標数値である10%超を維持

## 2. 2023年3月期 通期業績予想

- 想定を上回る第3四半期累計実績を踏まえ、通期売上高・営業利益予想を上方修正
- エネルギー価格高騰、世界的なインフレ拡大等で投入コスト増加の影響が継続
- 引き続き全社的なコスト削減、高付加価値製品拡大、価格転嫁に努め、収益性改善に注力

## 3. リバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革施策の主な進捗

- 事業構造改革：マレーシアの既存フロート窯に太陽電池パネル用ガラスのオンラインコーティング設備建設を開始  
(2024年3月期第3四半期より生産開始予定)  
米国でも太陽電池パネル用ガラスの拡大に向けて検討中
- 財務基盤の回復：自己資本比率はRP24の財務目標数値である10%超を維持

## ご注意



当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場の経済環境および競争環境、製品需給、為替・金利相場、原燃料市場環境、法規制の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。

日本板硝子株式会社



## 補足資料



- 連結損益計算書 四半期別推移
- 事業部門別・地域別業績 四半期別推移
- セグメント情報
- 地域別売上高および営業利益
- 個別開示項目
- 為替レート・為替感応度
- 減価償却費・資本的支出・研究開発費
- エネルギーコスト内訳

# 連結損益計算書 四半期別推移



(億円)	2021年 3月期				2022年 3月期				2023年 3月期		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期
売上高	919	1,297	1,358	1,419	1,477	1,430	1,523	1,576	1,779	1,977	1,906
営業利益 (△損失)	△ 6	38	48	50	72	55	18	55	83	62	97
営業利益率	-	2.9%	3.5%	3.6%	4.8%	3.9%	1.2%	3.5%	4.6%	3.1%	5.1%
個別開示項目 (COVID-19関連)	△ 115	△ 13	△ 12	△ 21	-	-	-	-	-	-	-
COVID-19関連個別開示項目後 営業利益 (△損失)	△ 121	25	36	30	72	55	18	55	83	62	97
個別開示項目 (その他)	△ 1	△ 8	10	△ 61	△ 2	47	△ 2	△ 7	23	△ 473	10
個別開示項目後営業利益 (△損失)	△ 122	17	46	△ 31	70	102	17	48	106	△ 411	107
金融費用 (純額)	△ 24	△ 30	△ 21	△ 35	△ 29	△ 29	△ 32	△ 34	△ 28	△ 37	△ 48
持分法適用会社に対する 金融債権の減損損失	-	-	-	-	-	-	-	△ 34	-	-	-
持分法による投資利益	△ 4	2	10	13	15	19	22	19	22	10	21
持分法投資に関する その他の利益 (△損失)	-	-	-	6	-	-	-	△ 34	△ 12	5	△ 4
税引前利益 (△損失)	△ 149	△ 11	35	△ 47	55	92	7	△ 36	88	△ 434	77
当期利益 (△損失)	△ 165	△ 7	37	△ 28	29	67	10	△ 38	33	△ 403	22
純利益 (△損失)*	△ 164	△ 9	34	△ 30	25	61	0	△ 45	24	△ 412	17
EBITDA	61	127	135	145	165	146	111	144	180	161	202

2023年2月9日 | 2023年3月期第3四半期決算報告

\*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

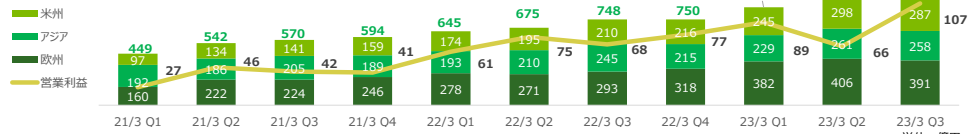
24

# 事業部門別・地域別売上高および営業利益 四半期別推移



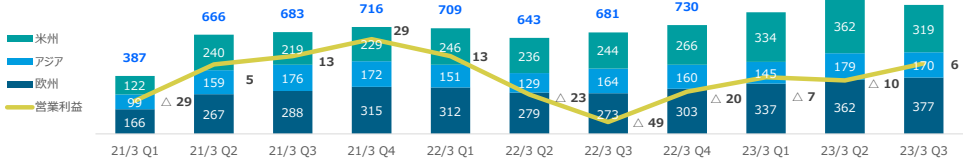
## 建築用ガラス事業

単位：億円



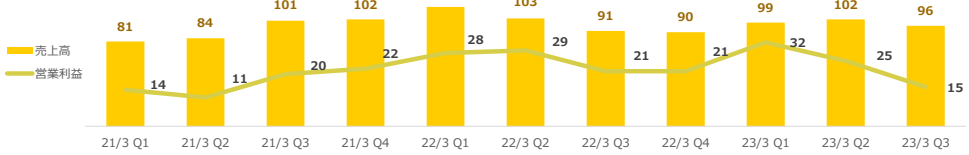
## 自動車用ガラス事業

単位：億円



## 高機能ガラス事業

単位：億円



# セグメント情報



(億円)	2021年3月期					2022年3月期					2023年3月期			
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	4-6月期	7-9月期	10-12月期	累計
売上高: 建築用ガラス	449	542	570	594	2,155	645	675	748	750	2,818	856	965	936	2,757
欧州	160	222	224	245	852	278	271	293	318	1,160	382	406	391	1,180
アジア	192	186	205	189	772	193	210	245	215	862	229	261	258	748
米州	97	134	141	160	531	174	194	210	216	795	245	298	287	830
営業利益	27	46	43	41	157	61	75	68	77	281	89	66	107	262
COVID後営業利益*	△ 22	41	38	34	91	-	-	-	-	-	-	-	-	-
売上高: 自動車用ガラス	387	667	682	716	2,452	709	643	681	730	2,762	816	903	866	2,584
欧州	166	267	288	315	1,036	312	279	273	303	1,167	337	362	377	1,076
アジア	99	159	176	173	606	151	129	164	160	604	145	179	170	494
米州	122	241	219	229	810	246	236	244	266	992	334	362	319	1,015
営業利益	△ 29	5	13	29	18	13	△ 23	△ 49	△ 20	△ 79	△ 7	△ 10	6	△ 11
COVID後営業利益*	△ 93	△ 6	4	17	△ 78	-	-	-	-	-	-	-	-	-
売上高: 高機能ガラス	81	84	101	102	368	114	103	91	90	398	99	102	96	298
欧州	13	14	18	19	64	21	18	20	20	79	21	25	22	68
アジア	65	67	80	81	293	90	82	68	66	306	75	73	70	218
米州	3	3	3	3	11	3	3	3	4	13	4	5	4	12
営業利益	14	11	20	22	67	28	29	21	21	99	32	25	15	72
COVID後営業利益*	12	10	21	22	65	-	-	-	-	-	-	-	-	-
売上高: その他	2	4	5	6	17	9	8	3	7	27	8	7	9	23
営業利益	△ 18	△ 23	△ 28	△ 42	△ 111	△ 31	△ 25	△ 22	△ 24	△ 101	△ 31	△ 19	△ 31	△ 82
COVID後営業利益*	△ 18	△ 20	△ 27	△ 43	△ 108	-	-	-	-	-	-	-	-	-
売上高: 合計	919	1,297	1,358	1,419	4,992	1,477	1,430	1,523	1,576	6,006	1,779	1,977	1,906	5,662
営業利益	△ 6	38	48	50	131	72	55	18	55	200	83	62	97	242
COVID後営業利益*	△ 121	25	36	30	△ 30	-	-	-	-	-	-	-	-	-

2023年2月9日 | 2023年3月期第3四半期決算報告

\*COVID-19関連個別開示項目後営業利益

## 地域別売上高および営業利益



(億円)	2022年3月期 4-12月期			2023年3月期 4-12月期			増減	
	売上高	%	営業利益 (△損失)	売上高	%	営業利益 (△損失)	売上高	営業利益 (△損失)
欧州	1,765	40%	△ 15	2,324	41%	62	559	77
アジア	1,331	30%	157	1,459	26%	161	128	4
米州	1,314	30%	80	1,856	33%	100	543	20
その他 *	20	0%	△ 77	23	0%	△ 82	3	△ 4
合計	4,430	100%	145	5,662	100%	242	1,233	96

\* 「その他」セグメントの売上高、営業利益は地域別に区分していない。

## 個別開示項目

(億円)	2022年3月期 4-12月期	2023年3月期 4-12月期
リストラチャリング費用	△ 1	△ 2
のれんおよび無形資産の減損損失	-	△ 488
係争案件の解決に係る収益 (△費用) 純額	△ 3	27
子会社売却・事業譲渡による利益	44	15
固定資産売却による利益	-	6
その他	4	2
<b>個別開示項目 純額</b>	<b>44</b>	<b>△ 439</b>

# 為替レート・為替感応度



## 期中平均レート

	2021年 3月期				2022年 3月期				2023年 3月期		
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3
英ポンド	133	135	136	139	153	152	153	153	163	163	164
ユーロ	118	121	123	124	132	131	131	130	138	139	140
米ドル	107	106	106	106	109	109	112	112	129	134	137
ブラジル・レアル	19.9	19.8	19.7	19.7	20.6	20.8	20.7	21.0	26.4	26.4	26.5
アルゼンチン・ペソ	超インフレ会計の適用により、期末レートのみ使用										

## 期末レート

	2021年 3月期				2022年 3月期				2023年 3月期		
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3
英ポンド	132	135	141	152	153	150	156	160	165	161	160
ユーロ	121	124	127	130	132	129	131	136	142	141	140
米ドル	107	105	103	111	111	112	116	122	136	145	132
ブラジル・レアル	19.9	18.7	19.8	19.1	22.3	20.6	20.4	25.5	26.2	26.7	25.7
アルゼンチン・ペソ	1.53	1.38	1.22	1.20	1.16	1.13	1.12	1.10	1.09	0.98	0.76

## 為替感応度

他の前提に変動がない条件で、  
為替レートが他の通貨に対して  
1%円安になった場合の影響額

	2022年 3月期
資本	40.0億円 の増加
当期利益	1.0億円 の改善

## 減価償却費・資本的支出・研究開発費



(億円)	2022年3月期 4-12月期	2023年3月期 4-12月期	2023年3月期 見通し
<b>減価償却費</b>	<b>277</b>	<b>302</b>	<b>390</b>
<b>資本的支出</b>	<b>153</b>	<b>263</b>	<b>400</b>
通常投資	134	226	
戦略投資、他	19	37	
<b>研究開発費</b>	<b>61</b>	<b>68</b>	<b>95</b>
建築用ガラス事業	18	21	
自動車用ガラス事業	18	20	
高機能ガラス事業	7	7	
その他	18	20	



# エネルギーコスト内訳 (2022年3月期→2023年3月期)

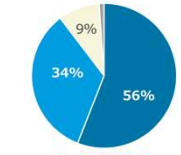


エネルギーコストは前年同期比グループ全体で+78%\*、天然ガスは+104%。  
 天然ガス価格は第3四半期に低下したが依然高値圏。

地域別では欧州および米州、事業別では建築用ガラス事業に大きなコスト上昇圧力

2022年3月期 (4-12月期)

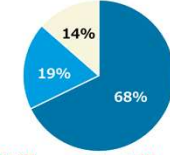
グループ全体 (エネルギー別)



コスト増

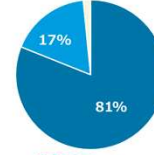
+78%、天然ガス+104%

天然ガスグループ全体 (地域別)

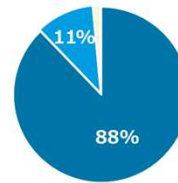
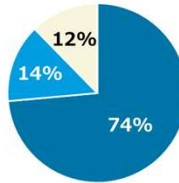
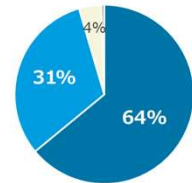


欧州+121%、米州+85%

天然ガスグループ全体 (事業別)



建築用+121%

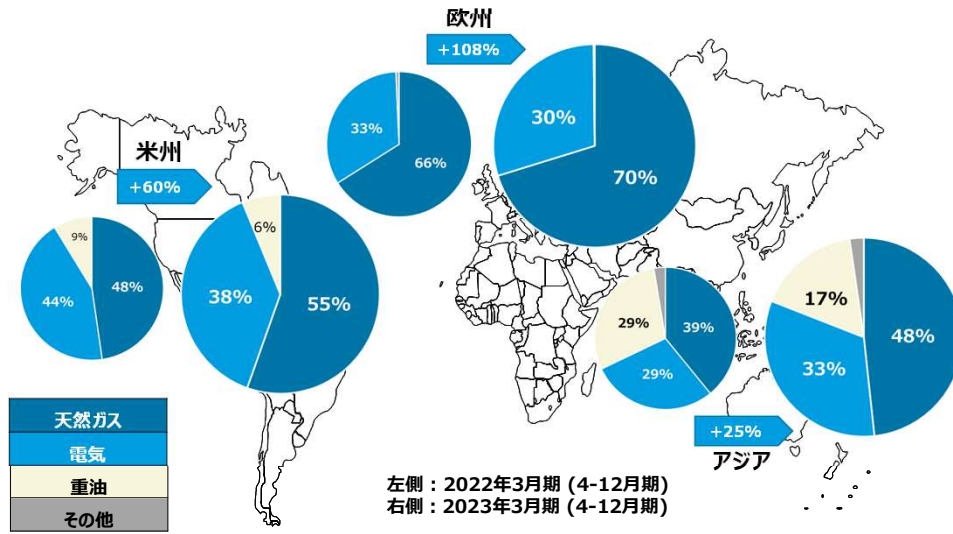


2023年3月期 (4-12月期)

\* 円安による為替影響を除くと+60%

# エネルギーコスト内訳 (地域別)

天然ガス価格の高騰は欧州、米州を中心に世界的にエネルギーコストに大きな影響を与える



左側：2022年3月期 (4-12月期)  
右側：2023年3月期 (4-12月期)